

郡山市環境審議会 会議録

会議名 令和5年度第1回郡山市環境審議会
 日時 令和5年11月20日(月) 午後2時15分から午後4時00分まで
 場所 郡山市総合福祉センター3階 研修室(洋室4)
 出席者 (環境審議会委員 10名)
 難波謙二会長、會田久仁子副会長、市岡綾子委員、太田弘志委員、
 菅野千恵子委員、五味馨委員、佐久間裕委員、鈴木祐介委員、添田ゆかり委員、
 橋本健委員
 (郡山市及び事務局)
 伊坂環境部長、渡辺環境部次長兼環境政策課長、
 大内3R推進課長、斎藤環境保全センター所長、国分3R推進課課長補佐、
 新田総務管理係長、鶴沼気候変動適応推進係長、秋津エネルギー政策係長、
 阿部原子力災害対策係長、総務管理係柳沼主任、総務管理係塚原主査
 欠席者 (環境審議会委員 5名)
 大槻礼子委員、小野容子委員、古谷博秀委員、湯浅大郎委員、渡辺則子委員

傍聴者 0名

- 次第
- 1 開会
 - 2 郡山市環境審議会の運営等について
 - 3 会長及び副会長の選出
 - 4 議事 郡山市第四次環境基本計画年次報告について
 - 5 その他 (1) 気候変動適応法の一部改正について
(2) 環境部で実施している事業について
 - 6 閉会

会議内容

1	開会
2	郡山市環境審議会の運営等について(配付資料により事務局が説明)
3	会長及び副会長の選出
司会	郡山市環境審議会条例第4条の規定により、会長及び副会長は委員の互選により定めることとなっております。選出について何か提案はありますか。
橋本委員	事務局案があれば、お聞かせいただきたい。
事務局	事務局案として、会長に難波 謙二委員、副会長に會田 久仁子委員を提案します。
司会	ただいま事務局案の提案がありましたが、いかがでしょうか。
各委員	(「異議なし」の声)

司会	異議なしとの声をいただいたので、会長は難波 謙二委員、副会長は會田 久仁子委員に決定します。
難波会長	会長を仰せつかりました。2年間よろしく申し上げます。 忌憚のない議論をすることにより、できるだけみなさんの意見を反映したお答えが事務局にできるよう運営していきたいと思えます。
會田副会長	引き続き務めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。 先ほど事務局から説明があったように、この環境審議会で取り扱う内容はかなり多岐に渡っております。会長、副会長含め15名の委員で多くの意見を出し合って、知恵を絞り、良い方向に進めて参りたいと思えます。
4 議事	
司会	議事に先立ち、会議の成立に関して報告します。委員15名のうち、出席者は10名であり、郡山市環境審議会条例第5条第2項に規定する委員の過半数が出席されておりますので、この会議が成立することを報告します。 ここからの進行は、郡山市環境審議会条例第5条に基づき、難波会長に議長を務めていただきます。
難波会長	審議に入る前に会議の公開、非公開を委員に諮りたいと思えますので、事務局から説明願ひます。
事務局	本日の審議会は、「附属機関等の会議の公開基準」に定められている、非公開とする事由に該当する事項がないため、「郡山市附属機関等の会議の公開に関する要領」及び「傍聴要領」に基づき、会議を公開とし、傍聴者を5名としてよろしいかお諮り願ひます。
難波会長	本会議を公開とし、傍聴者を5名としてよろしいでしょうか。
各委員	(「異議なし」の声)
難波会長	本日の傍聴者はどうなっていますか。
事務局	傍聴希望者は、ございませんでした。
難波会長	それでは、郡山市第四次環境基本計画年次報告について、事務局から説明を願ひます。
事務局	(配付資料により説明)
難波会長	ただ今、事務局より説明がありましたが、質問や意見などあれば願ひします。

添田委員	<p>第四次環境基本計画の周知について、事業者を含む一般市民への周知はどのように行っているのでしょうか。</p> <p>わたしは廃棄物処理業とリサイクル業を営んでおり、また県内の小中高校を回って環境教育を行っていますが、ゴミの分別方法が分からない子ども、親が多いと思われます。事業系ごみを一般のごみ集積所に出す事業者も多々見受けられ、ごみの出し方を説明している状況です。机上論と言っては申し訳ないが、一般市民の目線でもう少し具体的に周知をしていただきたいと思います。</p>
事務局 渡辺次長	<p>第四次環境基本計画自体は内容がかなり広範囲にわたるため、なかなか個別に市民の方に周知するというのは難しいが、市ウェブサイトに掲載しているのでご覧いただくことは可能です。廃棄物の出し方などを含めた詳細は、別途周知を行っております。</p>
事務局 大内課長	<p>委員から具体的に意見のありました子どもが家庭で廃棄物の区別ができていない状況については、教育委員会と協力して全小学校4年生を対象にごみ関係の授業を1年間行っています。</p> <p>また、一般の方が郡山市のごみの状況や、実際にどのようにごみが処理されているのかを体感することができる体感型学習施設を今年の4月から富久山クリーンセンターに設けております。</p> <p>また、廃棄物の再資源化に関しては、今年度から富久山クリーンセンターリサイクルプラザにおいて、ペットボトルの搬出に関してラベルやキャップをとらないとどのような苦労があるのかを YouTube 等で動画配信しています。</p> <p>ただ、まだまだ郡山市はごみの分別が他市と比べて甘いという指摘があるため、今後も市の広報誌、ウェブサイト、SNS 等各種媒体を使い、広く市民の皆さんに広報していきたいと考えています。</p>
難波会長	<p>ほかに意見等がありますか。</p>
市岡委員	<p>年次報告の内容について、3点教えてください。</p> <p>取り組みの柱「1-③セーフコミュニティの認知度」について、認知度はどのように調べているのでしょうか。</p> <p>取り組みの柱「2-①再生利用率」について、あまり芳しくないような状況に見受けられますが、目標達成できるとされている確固たる根拠があるのであれば教えていただきたい。個人的にはちょっと厳しいと思いますが、評価に「○」を付けた理由をお伺いしたい。</p> <p>取り組みの柱「3-①有害鳥獣による農産物の被害面積」については、イノシシの被害だけが問題なのでしょうか。ほかに新たに有害鳥獣の扱いにしなければならない生き物が増えているのでしょうか。</p>
事務局 新田係長	<p>取り組みの柱「1-③セーフコミュニティの認知度」は、セーフコミュニティ課で2年に1度実施している「市民意識調査」においてはかっています。「セーフコミュニティについてどの程度知っていますか」の</p>

	<p>質問事項に対し、「よく知っている、知っている、セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある」と回答した割合が 43.2%となっております。調査対象者は郡山市に在住する満 18 歳以上の方で、住民基本台帳から年代、地域を考慮し無作為抽出した 4,000 人です。調査期間は令和 4 年 6 月 17 日から 7 月 15 日までで、回収件数 1,680 件、回収率は 42%となっております。</p>
<p>事務局 大内課長</p>	<p>「2-①再利用率」についてですが、現在郡山市のリサイクル率は中核市のリサイクル率の約半分という状況で、現状では目標値の 25.3% をクリアするのは厳しい状況です。</p> <p>要因としては、ヨークベニマル様、イオン様が店舗で実施している資源物回収を利用する方が多く、紙類、ペットボトルに関しては郡山市の集団回収もしくは分別回収が減ってきている状況です。</p> <p>市としてもこの状況を良しとしているわけではなく、今年 10 月から富久山クリーンセンター、河内クリーンセンターにおいて焼却灰から金などの貴金属を取り出す都市鉱山の事業を開始しました。また集団回収については、年間集団回収 3,000 トンの資源物を回収しており、福島市の倍の回収量を記録しております。</p> <p>ただ、このままでは確かに再生利用率の目標達成は厳しいので、この数値を少しでも上げていくよう市民に対する更なる啓発を行い、事業の推進を行ってまいります。</p>
<p>事務局 新田係長</p>	<p>「3-①有害鳥獣による農産物の被害面積」について、イノシシの被害だけが問題なのかとの質問ですが、令和 4 年度郡山市鳥獣被害防止計画実施状況報告書によると、対象鳥獣はイノシシ、ニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンザル、ハクビシン、カラス、カワウとなっております。被害の状況を令和 3 年度と比較するとハクビシン、カワウについては被害が減少、イノシシ、ニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンザル、カラスについては被害が増加したとの報告を受けています。</p>
<p>難波会長</p>	<p>郡山市内でニホンジカの被害が出ているのですか。</p>
<p>事務局 新田係長</p>	<p>ニホンジカについては郡山西部地域の三穂田町、逢瀬町、片平町、湖南町、熱海町を中心に生息しており、主に 7 月から 10 月に水稻を中心に被害が発生しているとの報告があります。</p>
<p>難波会長</p>	<p>イノシシの被害だけが問題ではないということですね。</p>
<p>市岡委員</p>	<p>先ほどの再生利用率の件は、スーパーなどの店舗で実施している資源物回収に出す市民が多く、市の集団回収率が減っているという理由を評価結果に対する理由に書いたほうが良いと思います。</p>
<p>事務局 大内課長</p>	<p>わかりました。</p>

事務局 伊坂部長	<p>ご承知のとおり、郡山市の一人一日あたりのごみ排出量は 2020 年度、2021 年度と 2 年連続、中核市ワースト 1 という不名誉な記録を背負っています。そのような中、一般廃棄物処理基本計画に基づく郡山市廃棄物減量等推進審議会において、ごみの減量に特化した審議を並行して行っています。</p> <p>リサイクル率の向上というのも、ごみ減量の一つのツールですので、担当課長からも説明があったように、都市鉱山や資源回収や分別の徹底など、ごみの減量については一丁目一番地の考えのもとでどんなことがあってもやらなければならないという思いも込めて、この評価にしたということで理解いただければと思います。</p>
難波会長	<p>ここで審議することではないが、ごみの減量に関しては、ごみ袋を有料化するとの議論もあると伺っているが、それによってごみが減ったという自治体もあるのでしょうか。</p>
事務局 伊坂部長	<p>ごみの減量を目指すための施策の一つとして、有料化という議論をしていただいておりますが、郡山市の場合、他の中核市の平均と比べて事業系ごみが 1.5 倍くらい、生活系ごみが 1.2 倍くらいと、事業系ごみが圧倒的に多い状況です。</p> <p>先ほど委員からの意見でもあったように、事業系ごみは町内会のごみ集積所に出せないことを 4 分の 1 の事業者は知らなかったという市のアンケート調査の結果があります。本来、事業系ごみとして処理されなければならないごみがクリーンセンターに搬入されていて、それがカウントされているからごみが多いという問題も実際起こっております。</p> <p>そういうことも含めて、今、事業系ごみの処理料金が周辺自治体と比べて少し安いので、少なくとも周辺自治体並みには引き上げることにしてはどうか議論いただいております。ただ、それだけではごみは減らないという意見も半分の方からいただいているので、やはりソフト、ハード、市民への啓発、事業者への啓発をひっくるめてパッケージでやらないと簡単にワースト 1 は脱却できないと考えております。</p> <p>家庭系ごみの有料化については、市民アンケートでも 5 割以上が有料化よりもっと先にやることあるだろうという意見ですし、粗大ごみの有料化ならいいが、一般の家庭ごみを有料化するのはどうなのかという意見も過半数を占めていますので、家庭系ごみの有料化についてはそういう意見も踏まえながら、まずは他の中核市に比して多い事業系ごみについて何とかしたいという思いで議論を進めております。</p>
橋本委員	<p>事業系ごみの総量は把握されているのですか。</p>
事務局 大内課長	<p>事業系ごみは大きく分けると一般廃棄物と産業廃棄物とに分けられます。産業廃棄物は市に処理施設がないので、これについては把握できません。ただし一般廃棄物については各事業者が一般廃棄物許可業者に契約しているので、それはクリーンセンターに搬入されるので把握しております。</p>

難波会長	産業廃棄物以外は把握できているということですか。
事務局 大内課長	そのとおりです。
橋本委員	事業系の廃棄物の把握は難しいと思う。マニフェストを書くものもあるし、書かないものもあるし。
事務局 大内課長	マニフェストを書くものが産業廃棄物なので、そちらは把握する方法がありません。マニフェストを書かないのが一般廃棄物なので、こちらについては市のほうで把握しております。
難波会長	事業系の一般廃棄物が大きな割合を占めているということですね。
事務局 大内課長	中核市の平均の 1.48 倍となっております。
五味委員	「②-1 再生利用率」について、お話を伺えば伺うほどやはり目標達成にはかなりの努力が必要と思われる。事務局から今後の取り組みについて方針を説明いただいたが、今まで取り組まれてきたことでは達成できないことはすでに分かっている、これから頑張るとのことだと、「○」の評価基準は「このまま取り組めば目標達成の可能性が高い」ということなので、この評価にするのはさすがに無理があるのではないかと私としては感じます。
難波会長	評価が「○」ではないのではとの意見ですが、もう一度検討いただいて「○」は「△」になるでしょうか。
事務局 渡辺次長	評価については、「○」を「△」に変更いたします。
難波会長	よろしく申し上げます。ほかに意見等ありますか。
事務局 伊坂部長	重点項目 1-1 の資料、カーボンニュートラルについて補足説明します。温室効果ガス排出量は今、基準年度比で 15.8% 減少なので、このペースでいくと、あと 10 年で本当に削減目標 50% を達成できるのかというのは現実あるかと思えます。日本の構造上、やはり産業部門や運輸部門の排出量は大幅に減らすのは難しいだろう、業務部門や家庭部門については大幅に減らせるだろうというのが国の考え方であります。郡山市は物流の街でもあって、企業誘致でも 2024 年度問題などがあります。今まで仙台まで行けたのが、郡山で中継所をとらないとなかなか規制がクリアできない等の理由により、郡山市に物流の企業が多く進出していることもあり、これは郡山市の地理性もあってある程度仕方ないと理解しています。

	<p>一方、トヨタさん、県、ベニマルさんが運輸部門でFCトラックなどを活用して、できるだけ運輸部門でもCO2を出さない取り組みなどを始めていますので、我々も削減目標として掲げている以上、車が増えたから仕方がないではなく、何ができるかしっかり考えていきますし、家庭や事業所に向けての周知啓発がまだまだ不足していることは否めません。今後も積極的に新年度予算で新規施策も検討しているので、何とか目標達成できるように頑張っていきたいと考えています。</p>
難波会長	<p>運輸の説明もありましたがいかがでしょうか。</p>
五味委員	<p>2030年目標があるという状況なので、そこに届くかどうかを評価すべきかと思いますが、この資料にある温室効果ガス排出量の過去最大が2015年で、2014年をひとまず削減が始まったと仮にみると2020年までの5年間で16%程減っています。仮に2015年と2020年の間を直線で結んでそれをまっすぐ2030年まで伸ばしたとすると、その時の排出量は基準年の48%削減になります。</p> <p>2030年にはマイナス50%の削減目標なので、少しだけ届かない数値ですが、仮にこのペースで減っていけば、だいたい目標の近くに辿り着くと言えらると思います。ただ、そんなに簡単な話ではなく、すでに省エネルギーがかなり進んでいるのではないかと思います。この間家庭部門は人口が1%くらい減っているところで排出量はそれよりもだいぶ大きく減っているので、家庭での削減がかなり進んでいます。ですので、この26%くらいからここよりも更に同じペースで、今後約10年をこのペースで減少し続けるとは考えづらいです。</p> <p>一方で、産業部門は、どんな工場が立地しているかでだいたい決まってしまうので、なかなか読みづらい。そうすると、やはりどうしても一番大きい運輸部門ということになってしまうんですね。この運輸部門で少し気になったのは乗用車保有台数の増加で、これはかなり大きなポイントだと思うのですが、郡山市の場合、運輸部門の貨物と普通乗用車の割合はどれくらいなのでしょう。</p>
事務局 秋津係長	<p>普通乗用車の台数しか把握していませんが、福島県全体だと今年の9月末現在で912,800台となっています。</p>
事務局 渡辺次長	<p>今回出させていただいているパーセントは、3年前に国が示す数字を基としてそれを郡山市にあてはめているので、貨物部門、普通乗用車部門というのが、最終的に按分すると国とダブってしまうのかなというところではあります。実際、郡山市ですと中継基地になったり、外部からの車が来たりということもあるので、そういった評価ができるか今後検証させていただければと思います。</p>
五味委員	<p>郡山市気候変動対策総合戦略（概要版）の18ページに掲載されているKPI（重要業績評価指数）については、今回の年次報告の議題にはならなかったのでしょうか。</p>

事務局 渡辺次長	郡山市気候変動対策総合戦略につきましては、今年の3月に改定してまだ1年経過していないので、次回以降お示ししたいと思います。
五味委員	今の交通の話ですが、郡山市気候変動対策総合戦略（概要版）の13ページに関係するのがいろいろ書いてあって、私自身も郡山市民なので安全で便利な交通システムみたいなものができるといいなと思っていますので、ここに書かれていることをすると、今一番大きい割合になっている運輸部門というのはどれくらい減らせるのか、どこかで見られるようになるといいと思います。
事務局 渡辺次長	今の運輸部門につきまして、詳細なものが示せるようであれば次回以降お示ししたいと思います。
添田委員	運輸部門ということで、産業廃棄物の運搬で県外に行ったりするのですが、大型トラックを新車で買うと1台何千万とするので、中小企業の事業者はそういうのがネックになっています。補助金がいただけない、いただいてもほんの一部なので、結局中古の安い大型運輸車を買っていて、次世代ではなく後戻りしている状況です。郡山市内はそういう事業者がほとんどだと思うので、そういうところに行政の補助が行き届くと良いと思います。
事務局 渡辺次長	<p>現行、乗用車タイプの燃料電池自動車と電気自動車の導入については市の補助金はあります。ただ、大型トラック等でEVやFCV車への補助は、価格的にまだまだ高いので難しい状況です。</p> <p>今、トヨタさん、ベニマルさんなどFCトラックが走り始めたばかりで、それに対する経費も安くないものですから、この辺については技術革新も含めて長期的にみていくしかないのではと考えています。</p>
橋本委員	<p>大熊町でイベントを行った際、バスを持っていきたかったのですが、埼玉県から福島県には途中で燃料切れを起こすので持ってこられない。バスはレッカーに積めないで、去年はバスを走らせないように牽引で引っ張ってきた。まだまだ開発の余地はあります。</p> <p>今後、本宮市にトラック用の水素ステーションを作るようですが、現時点ではなかなか連続走行できない状況です。</p>
難波会長	他に質問、意見等ないようでしたら、すべての議事を終了とします。
5 その他	
事務局	(1) 気候変動適応法の一部改正について及び(2) 環境部で実施している事業について、配付資料をもとに説明。
6 閉会	